

20代女性 大阪めざす

大阪の人口動向に関心があり、日経新聞 8 月 10 日朝刊「データでみる関西」の標題の記事に注目した。

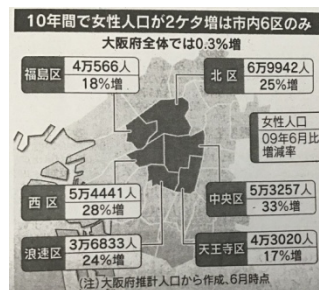
リードから一大阪に 20 代女性が集まり始めた。2019 年 1～6 月の大阪府への転入超過数は前年同期に比べ 7 割増えた。そのうち 20 代女性の超過数が全体の 9 割弱を占める。これまでも大阪に転入する若い女性が目立ってきたが、インバウンド(訪日外国人)の増加を追い風にホテルや飲食店などが採用活動を全国に広げる動きが流入に拍車をかけているようだ。

総務省の住民基本台帳人口移動報告によると、1～6 月の大阪府への転入超過数は 6004 人だった。転入数では 20 代の男性の占める割合が最も高く、次に 20 代女性が続く。ただ男性は転出数も多いため、転入超過では 20 代女性が 5219 人と最も多く、足元の 10 年間では最高水準だ。長らく人口流出が続いていた大阪府では 11 年以降、転入超過の傾向が続いている。特に 20 代女性は安定して転入超過が続き、全体を下支えしている。18 年でみると、兵庫県、京都府、奈良県の関西圏のほか、福岡県など西日本からの 20 代女性の転入が目立つ。

大阪府の人口推計によると、10 年間で女性人口が 2 ケタ増だったのは大阪市内の中央、西、北区など 6 区だった。20～30 代女性が占める割合が高く、人口流入の受け皿になっている。人口の増加は働き手だけでなく、消費の担い手も増やす。市中心部ではワンルームマンションが増えているほか、スーパー業界も単身者を狙った小型店舗を相次いで開設している。

「西区はおしゃれなアパレルや飲食店が多い。街並みがきれいな堀江が若い女性の間で人気です」一。大阪市内にオフィスを構える不動産仲介業者は話す。西区はタワーマンションなど新築も増え、賃貸物件を探す人が増えているという。

足元の 1 年間でも男性を含めた転入などに伴う人口増加数は、北区、中央区、西区が上位を占める。人口増を受け、小売り各社も 3 区への出店を急ピッチで進めている。もっとも、大阪府全体では 10 年間で男性は 1%強減少し、女性も 0.3%増にとどまる。男性が 6%増え、女性も 8%増えた東京には遠く及ばない。



西長堀にある大阪市立中央図書館に行くとき、心斎橋から長堀通などを歩く。タワーマンションや高層マンションが立ち並び、若い女性や子育て世代に出会うことも多い。若者に人気の「アメリカ村」から堀江の方に行くと、おしゃれな店に入る若い女性を見かける。歩くコースを変えて、堀江界わいの「路上観察」を続けていこう。

(2019 年 9 月 16 日)